

令和7年度の主な不登校総合対策について ※R7年度当初予算案

資料4

新たな不登校を生まない取組(予防の取組)

未然防止(魅力ある学校づくり)

初期対応(早期発見・早期対応)

不登校児童生徒への支援

不登校総合対策検討委員会 892千円

学識経験者やSC・フリースクール等の青少年支援関係者、学校関係者等に委員を委嘱し、栃木県における不登校総合対策について検討する。

R7は方向性の具体化に向け、年3回程度開催予定。

居心地向上実践研究

3,046千円(新規)

研究協力校において、学校風土調査を用いて学校風土の見える化を図り、その向上に向けた実践を通して不登校の未然防止に努める。

研究協力校の実践を、外部専門家と指導主事による年数回の学校訪問及びオンラインによる伴走支援等を通して、支援する。

SC、SSWの配置工夫

各学校へのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置工夫

SC:261,558千円 SSW:97,984千円

(SC:R7重点配置校設置(10校程度))

不登校支援関係機関の連携体制構築に関する協議会

392千円(新規)

不登校児童生徒の社会的自立に向けて、不登校支援関係機関の現状や課題を共有するとともに、協力体制づくりを促進する。

参加者:SC、SSW、市町教委、市町教育支援センター、フリースクール等民間機関、医療・福祉関係者、県関係部局(県民協働推進課、保健福祉課、障害福祉課、こども政策課) 県教委事務局(教育政策課、各教育事務所等) 等

居場所と絆づくり実践研究 31千円

実践校において、学校における居場所と絆づくり(安心できる学校・教室づくり)を研究。年3回指導主事等を学校に派遣する。(R7:県立高校1校)

「心の健康観察アプリ」の検証及び試行

児童生徒の心や体調の変化を把握し、早期発見、早期支援につなげる一人一台端末を活用したアプリの効果検証を行い、教員がいち早く変化に気づき適切な支援につなげるために必要な方策を検討する。

校内教育支援センターへの支援

19,530千円

校内教育支援センター等において児童生徒への支援や相談を行う学習指導員の配置費用を助成。(R6:23人⇒R7:31人)

教師の資質向上に向けた研修 299千円(新規)

・医療従事者による研修 ・人間関係づくりに関する研修 ・初期対応に関する研修

不登校支援に関する調査 243千円(新規)

フリースクール等の民間支援機関との連携に向けて、事業内容等の実態を把握